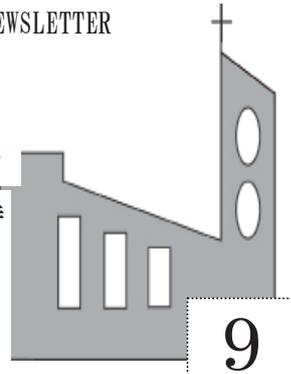


カトリック 大名町教会ニュース

DAIMYOUMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER



〔ミサ時間〕 主日：7時・9時30分/ベトナム語（第2・第4日曜日）：13時半/英語：16時
 〔ホームページ〕 <http://www.daimyomachi-c.or.jp/>
 〒810-0041 福岡市中央区大名2-7-7〔巡〕能古島カトリック教会 ミサ（土）18時
 TEL: 092-741-3687 Fax: 741-5107 〒819-0012 西区能古弁当 1621-12
 発行責任者：中村 彰 神父

9月 すべてのいのちを守るための月間（10月4日まで）

福岡教区年間目標：互いに支え合う「交わりの教会」となる

大名町教会年間テーマ：互いに支え合う「交わりの教会」となる

Becoming a "Church of communion" and mutual support

9月のお知らせ

- ◆炊き出し：6日（金）・20日（金） 21時
- ◆長寿を祝う会 感謝ミサ・祝賀会：
8日（日）9時半～
- ◆ふれあいの会：15日（日）9時半ミサ後
- ◆中央区花いっぱい運動（花植え）：
18日（水）13時～
- ◆エキュメニズム部会：18日（水）19時
- ◆教会学校キャンプ：
22日（日）10時～17時ミサまで
於・旧カトリック神学院
- ◆講演会「つながる喜び」：
（教区宣教養成委員会主催）
23日（月・振替休日）14時～16時
- ◆シノドスの実践：
29日（日）10時50分～12時40分



平和旬間に、たくさんの方が平和についての願い、祈りを書いてパネルに貼りました。平和になるように祈り、そして私たち一人一人が平和を作ることができる人になりますように。

福岡教区創立
100周年開幕



1927 ~ 2027

9月1日
☆被造物を大切に
する世界祈祷日

◆中村彰神父：*キリスト教入門講座
10時 19時

聖書学習会

◆チュエン神父：聖書のわかちあい
14時

ゆるしの秘跡：希望される方は、司祭に直接ご相談ください。（定期：毎週土曜日10時～11時半）

被昇天の聖母

毎年、8月15日は聖母マリア被昇天の祝日であり、全教会が盛大に祝います。

カトリック大名町教会でも、今年の8月15日10時にミサが行われました。

聖母マリアへの信仰に関しては、キリスト教徒みんなが聖母を敬愛していますが、その表現方法は各国の文化によって少し異なります。ベトナム人にとって、聖母への敬愛は特別です。そのため、聖母に関連する重要な祝日には、信者はしばしば聖母巡礼地を訪れます。彼らは2、3日の期間で巡礼し、祈り、ミサに参加し、ロザリオを唱え、聖母像を担ぎ、聖体を奉納します。

この日は常に盛大に祝われ、司教や多くの司祭が参加します。

特別な点として、カトリック信者だけでなく、多くの非カトリック信者も聖母巡礼地を訪れて祈ります。ベトナムには大規模で有名な巡礼地が多くあります。

例えば、ラヴァン聖母、チャキエウ聖母、マンデン聖母、ヌイクイ聖母などです。各教区には大きな巡礼地があり、各教会にも美しく豪華な聖母の神殿があります。

聖母を敬愛することは、信者全員の共通の美徳です。聖母のもとを訪れることで、信者は喜びと慰めを見つけることができます。聖母が幼子イエスを育み、守ってくださったように、聖母を訪れる人々もまた守られるでしょう。

JB. PHAM VAN THUYEN CM
洗礼者ヨハネ

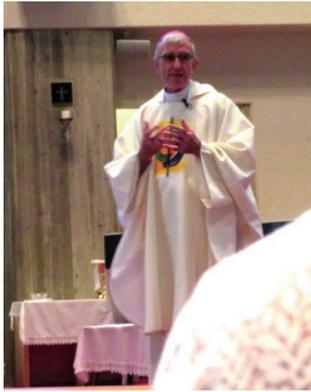
ファムバンチュエン 神父

2024年 日本カトリック平和旬間 『明日からできる平和を考える』

8月12日(月・山の日・振替休日)に、大名町教会で、福岡教区社会福音化委員会の正義と平和・人権部会主催の「平和を祈る集い」とインターナショナルミサが開催された。ミサに先立って行われた「平和に対する主張発表会」では、司祭、シスター、信徒、高校生の計15名が、平和についての熱い考えを発表した。

戦争があった現地を訪ねた生徒、ウクライナからポーランドに避難している女子高生と過ごした生徒、当たり前のように感謝することに気づいた人、イエスさまが与えてくださっている平和を深く学んだ人の発表が続いた。

インターナショナルミサ



集いのフィナーレは、ヨゼフ・アペイヤ司教の主司式による平和祈願ミサ。外国籍の人々と共に200名を超える信徒が集った。

司教は、平和の主張で「平和を望み、そのために働いていきたい」と語った高校生の話に心を打たれたこと。暴力や戦争は人々の心にある欲望、自分のものにしよう、自分の国にしよう、人を支配しようとするところから起きる、と話した。

また、ポーランドのアウシ

ユビッツ収容所、ビルケナウ収容所を訪問した時のことを語った。「何万人も殺された。山ほどの靴。たくさん人の髪の毛。靴を脱がせ丸坊主にしてガス室に入れた。なぜ神様は、それを許したか、それらが行われているとき神様はどこにいたのかと思つた。しかし、歩きながら考えが変わっていった。人間は責任転嫁をする。」

「人が戦争を起こし、神さまに止めさせてという。謙虚に祈るとき、『ごめんなさい』と始めないといけない。平和の祈りは叫びにならないかならない。ガザで1000人、10000人と亡くなる人がいる。あきらめず、平和のために変えられていく。」

神さまが聞いてくださらないことはない、変えてくださらないことはない。平和のために祈る人、働く人に変えられていく。政治だけで平和は作れない。自分自身を変えられて平和を愛し、平和をあきらめず、平和のために働く人でありたいと思う。」と語られた。

平和に対する主張



平和への一歩と話す原山映子さん

で、原山映子さんが発表。

30年前、若松教会でおにぎりづくりと夜回りに参加し、差別する自分に気づき、悩みを聞いてくださった本田哲郎神父様の「良い話を聞くより、良い本を読むより、行動した方が、み言葉が深く沁みこむ」とおっしゃった言葉に、続けようかと決心したこと、「私の兄弟、しかも最も小さな者たち一人にしたのは、私にしたことである」(マタイ25章40節)を胸に、東日本大震災ボランティアとしてカリタス石巻に通つての傾聴、原発事故から逃れて来て九州で訴訟を起こした人たちの裁判の応援、沖縄への研修旅行など、すべてを我がことのように思い、平和を祈り、戦争に反対する行動を起こしたいと語られました。

聖母被昇天のミサ

8月15日、聖母の被昇天のお祝いのミサがさざげられました。

中村彰神父様はお説教の中で、マリア様は、神様の力によって、天に昇られた。それはマリア様がすべての人のお母さんの役割を受け入れられたこと。聖母は私たちみんなのおかあさんになられた。人はこの世で一生を終えて帰天し、神さまは天に受け入れてくださる。地上に残っている人たちのために祈る。天にいる人たちは、私たちのために祈っていただく。心新たに生きていきたいと語られました。



共同祈願では「勝利の聖母を守護聖人にいたたく大名町教会が、マリアの心をもつて、人々に仕える共同体となりましよう」と祈りました。平和旬間にみなさんが平和への思いを書いたカードを、豊嶋清香さん、泰知くん姉弟が奉納しました。

教会の部会

朗読奉仕者、聖体奉仕者、手話通訳、花活け係、聖書と典綴綴係、拝領時の誘導係合同の集まりがあり、自己紹介をされました。この人々の奉仕が、教会共同体の運営と活動を支えています。感謝します。たくさんの方の参加をお待ちしています。

FYCC 18パン

8月10日から12日に、旧福岡カトリック神学院にてFYCC 18（担当：桑原篤史神父）を開催しました。中高生の参加者19名、青年スタッフ、修道者、食事などお手伝いいただいた方々を含め約50名が集いました。



FYCC 18に参加者、アベイヤ司教様を囲んで！

「パン」というテーマは、当日の福音からとりました。プログラムを作る中、このテーマは難しく、5つのパンの奇跡も踏まえ、「分かち合うこと」「満たされること」に重きを置きつつ、スタッフは苦戦しました。スタッフが少ない、新人も多く、それぞれの負担

も大きかったかと思えます。しかし、一人ひとりFYCC 18に対する想いは熱く、中高生の笑顔という形で実を結べたのではないのでしょうか。

2日目の夜に聖堂で行った「光の集い」で、一人ひとりが蠟燭に火を灯し、FYCC 18通して感じました。他者の言葉に耳を傾けることで一つになることが体現されたように感じました。私自身、イエス様がFYCC 18を通して、「なかま」を分かち合ってくくださったと実感しました。

多くの方々のお力添えと、神様の大きなお恵みのうちにFYCC 18が無事終わったことを心より感謝いたします。

ミカエラ 荒牧 結花

参加してよかった！

初対面の人ばかりで、不安な気持ちが大きかったけど実際に参加してみると新しい繋がりもでき、プログラムも楽しく、最終日は本当に参加して良かったなという気持ちでいっぱいでした。

分かち合いでは、自分のことを改めて振り返り、色々な話も聞き、とても有意義な時間を過ごすことができました。私にとってとても実りのある3日間になりました。

モニカ 石原 海晴

教区青年委員会「カタラント」がBBQ

7月20日（土）、司教館で「カタラント1学期お疲れ様会」をスタッフと運営にご協力頂いた神父様、シスター方で行いました！

4月28日にオープンして、約3ヶ月間を走り抜けたカタラント。アベイヤ司教様のお声かけを頂き、スタッフでBBQを開催しました。シスター方が春巻きやカプレーゼを振舞ってくださいったり、司教様からシャンパンを頂いたりしました。暑い中でしたが、笑顔の絶えない集いとなりました。



BBQの締めにはお花火の間に互いに火を分かち合いました。食事しながら会話を交わし、日々の疲れを癒すことが出来ました。集まれば、笑顔が溢れる。そんなカタラントにできるよう、2学期もスタッフ一同頑張ります。あなたのことをカタラントでお待ちしています！

マリア 石原 瑞樹

よろこびの幼児洗礼式

8月4日（日）のミサの中で、アントニオ船津風玖君の幼児洗礼式が行われました。

教会共同体に新たな家族を迎えられたことを神さまに感謝し、代父に抱かれた風玖君とご家族に、神さまの豊かなお恵みがありますようにお祈りしました。



聖母被昇天祭に和田墓地で追悼ミサと納骨式

8月15日（木）に教区和田墓地で、亡くなった方々の追悼ミサと納骨式がアベイヤ司教主司式で執り行われました。猛暑の中、200名を超える人がミサと、納骨式に参列しました。7月に帰天されたヨセフ浦俊雄神父様を初め、11名の方々の納骨があり、うち4名の方は大名町教会の信徒です。一日中、400人を超える方々が訪れ、故人を想い、生前のつながりを感じ、天国での永遠の安息をお祈りしました。墓地委員のみなさま、お世話になりました。

宣教司牧評議会

(8月18日)

◆議題

- 1 大名町教会規約改定の必要性について
教会規約についていくつかの課題が見えてきたので、教会規約検討委員会を立ち上げて検討することになった。
- 2 ミサ案内の掲示板について
現在のミサ時間の案内版に修正が必要な部分があり、掲示板の更新が決まっているが、新しい掲示内容を討議した。デザインは飛永氏に依頼する。
- 3 消防訓練の実施計画について（施設管理部）
 - (1) 消防組織の常設を前提に組織図案（役割分担表）が示され、各役割についてヨゼフ会等にも協力を要請して、組織を完成することになった。
 - (2) 次の消防訓練はその組織にもとづいて実施する。
 - (3) 消防点検・防火設備点検業者の変更について
消防点検及び防火設備、建築物の定期報告業者について、費用面及び報告書内容等から見直しを検討する事になった。
- 4 葬儀の連絡体制について
 - (1) 葬儀時の連絡体制の現状は一斉メール登録者が226名、FAX登録者が3名である。電話連絡は行っていない。メール登録者についてはテストメール配信を行い、メンテナンスを実施する。電話連絡は個人情報保護法の制約もあり名簿作成が難しいため行わない。

- (2) 一般信徒への連絡の可否については主任司祭が当事者の意向を確認して個別に判断する。
- 5 その他
 - (1) マット及びモップの更新を検討した結果、サニクリーン社からのレンタルに変更する。
 - (2) エレベーター部品交換について報告があり承認された。

◆報告事項

- 1 各委員会報告
 - (1) 第一回美化検討委員会（8-4出席者8名）で教会掃除について、解決すべき課題を整理し、お互いが認識している問題や信徒の声を共有した。
 - (2) 第2回カテドラル使用規則委員会（8-4出席者7名）で、大聖堂の利用目的、対象者等貸出使用について検討した。
 - (3) 第2回駐車場検討委員会（7-13出席者8名）、第3回駐車場検討委員会（8-11出席者10名）を開催した。できるだけ公共交通機関を利用して来ていただくよう呼びかける、ミサ後速やかな車の移動を呼びかけること等の報告があった。また、外国語ミサ時の駐車場不足の問題は、ミサ時間の変更、駐車場許可証の発行等によってかなり改善されており引き続き連絡・連携を密にしなから対応することが確認された。
- 2 各部活動報告
 - (1) 9月8日の長寿のお祝いについて、対象者は326名、出席回答者は8-18現在35名である。最終的に50-60名程度の参加が見込まれる。祝賀会の準備状況について報告があった。

- (2) 信徒会館ロビーエアコン更新、門扉及び看板・掲示板の進捗状況について報告があった。
- 3 その他
 - (1) 福岡教区信徒使徒職協議会（第2回 8月25日）を控え、7月28日の福岡地区信徒協の会議内容が吉田会長より報告された。
 - (2) 中村神父より「社会教説」（ヒュームンライツとライツオブネイチャー）についてのカトリック教会の教え）講演会 福岡教区 社会福音化委員主催 講師 中井 淳神父様の案内があり、行事調整をした上で検討することになった。
 - (3) 四旬節黙想会 3-29（土）、3-30（日） 指導 牧山強美神父様を予定。

大名町教会の現勢 8月

- 【幼児洗礼】おめでとございます
8月4日
- ・アントニオ 船津 風玖（ふく）
 - ・（船津 繁とマリアダンティフォン）
 - 【転入】ようこそ（教区・教会から）
 - ・ペトロ 目良 勉・カタリナ 寿乃
 - ・カタリナ 杏寿・パウロ 龍進（福岡・古賀）
 - 【転出】お元気で（教区・教会へ）
 - ・マリア 生田 美帆（那覇・安里）
 - 【帰天】永遠の安息を祈ります
 - 8月5日
 - ・マルタ 高尾 ユリ子
 - 8月6日
 - ・マリア・フランチェスカ 緒方 壽美子
 - 8月26日
 - ・マルガリタ マリア 鈴木 美子

ミサ・神のことはと キリストの体の食卓

ミサ全体は「ことばの典礼」と「感謝の典礼」の二つの部分から成っています。「ことばの典礼」では、聖書朗読によって神のことが告げられ、答唱詩編や説教などを通してそれを心におさめ、「感謝の典礼」では最後の晩さんを記念してキリストの奉獻と感謝がさげられ、そのキリストの体を拝領して皆一つになります。

実は60年前までミサはラテン語で行われていました。聖書も司祭がラテン語で読み、その同じ箇所を一人の方が、同時通訳よろしく、会衆に向かって日本語で読んでいました。そしてミサと言えば、何と言ってもキリストの御体と御血の聖変化と聖体拝領。今もまだその雰囲気が残っていて、心のどこかに、大切なのは感謝の典礼で、ことばの典礼はその準備の部といった思いがないでしょうか。

この二つの部は、「相互に固く結ばれて一つのミサをなして」（第2バチカン公会議）います。ミサは二つの峰を持つ一つの山のようなもの。二つとも同じように重要です。「神のことはとキリストの体の食卓が整えられ、信者はそこで教えられ、養われる」（同）のです。ミサの初めに、その準備・導入として入祭の歌が始まる「開祭」があり、最後にミサを結ぶ「閉祭」があって、宣教の使命を果たすべく祝福を受けて派遣されます。ミカエル 深堀 純